

“ Basic trust (基本的信頼) ” ということ

最後に1つだけ申し上げます。それは“ Basic Trust ”ということなんです。 “ 基本的信頼 ” という、アメリカの心理学者エリクソンの言葉ですが、これと食が繋がってくると私は思います。それはおっぱいの関係なんです。初めてのお食事っておっぱいでしょ？ そのようなときにお母さん達はどのようなものを赤ちゃんに与えているか、ということです。おっぱいを与えるお母さんが、「おいしいね。」「よく飲むね。」って話しかけてあげるとよく飲みますが、「もっとしっかり飲みなさい。」とか、「200ccは飲んで欲しいのに、120ccで終わったわよ！」って、ほっぺたを叩いて鼻をつまんで押し込めたりすると、赤ちゃんはもどします。ここなんです。子供のそのままを引き受けて、飲んでも飲まなくても「かしこいね。美しいね。」というメッセージを与えれば、その中で子供はだんだん「僕は僕のままでもいいんだ。」という、この感覚を得てきます。「この世に生まれてきたのは良かったことなんだ。」っていう実感ですね。生まれたら、反射機能を盛んにして、ごくごく飲んで、ピチピチとしたつややかな肌であるべきであるという、そんなこと赤ちゃんは考えてないわけですね。お母さん達も、ひよひよの赤ちゃんでもうちの子がかわいいと思いますし、ぷくぷくの赤ちゃんでもうちの子は美しいと思いますね。それぞれお母さん達は、最高の赤ん坊だと思っています。これを伝える、一番の大きなものが食なんです。おっぱいなんです。抱っこの抱き心地も含めて。ここに人格形成の根っこがあるんです。「僕、喜ばれてるんだよね。」って。「お母さんだけじゃなくて、ベビーカーで行くと、誰か覗く人はみんなニコってするよ。僕を見たらみんな笑うに決まってるんだ。」っていう、これをもって世界から受け入れられているという実感を子供達は確認していくんです。何か、もっと大きな年齢になって心が砕けそうになったとき、「ご飯を食べてくれてありがとう。」「ここにいてご飯食べていいんだからね。」と言ってくれる家族があれば、赤ちゃんが自分をスタートさせたように、もう一度心を戻すことができます。それが“ Basic trust ”ということです。母と赤ちゃんのおっぱいの関係は、人をもう一度繋ぎ直す大きな切り口になります、と最後に申し上げておきます。